

○知的障がい者雇用の好事例紹介を行いました。

株式会社光ハイツ・ヴェラス ヴェラス・クオーレ山の手で勤務している当事者の方（以下「本人」と記載）にご登壇頂きました。

札幌市を中心に介護付き有料老人ホーム 9 施設、デイサービス 1 施設を運営する株式会社光ハイツ・ヴェラスは、従業員約 330 人を雇用。そのうちヴェラス・クオーレ山の手には身体障害者 4 人（昨日訓練指導員、看護師、介護職）、知的・精神障がい者 1 人（介護職）が勤務しています。

セミナーでは同社が平成 17 年 8 月から、軽度知的障がいと自閉症を持つ職員を介護職として採用した事例を紹介しました。同社の求人を自分で探し応募してきた本人の「明るい性格と介護職員初任者研修の資格を持っていることが決め手となった」と平野裕司介護責任者から説明がありました。

同社は給与等待遇面を健常者と同条件で雇用。受け入れ当初は「手助けが必要なのに同条件は納得できない」と不満を持つ社員もいたといいます。しかし、職員への理解周知に力を注ぎ、本人を健常者と同じ研修に参加させるなど差別することなく対応しました。

平野責任者は実地研修レポートを作成し、一日の感想・反省・疑問、それらについて本人自身で考えた改善点を記入するなどを徹底化。さらに一日の業務を時系列で一覧できる票を作成し、最初はそれを見ながら従事してもらった。本人の明るく素直な性格もあって「職員の思い込み・偏見・遠慮は次第に払拭され信頼関係を築けるようになった」と話していました。

セミナーには本人も登場し、現在の業務内容や自分自身の想いについて発表。以前勤めていた職場では障がい者に対する差別や偏見があり「辛かった」とのこと。現在は差別なく職員がアドバイスしてくれることに感謝を示し、「入居者に喜んでもらえると、もっと頑張らなくてはと思う。将来は介護福祉士の資格を取得したい。」と意気込む。同社は 4 月から新たに障がい者 1 人を採用する予定であるそうです。

※2018 年 3 月 22 日に介護新聞に掲載された記事から引用しています。